

速報第3138号 R2.3.13発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	2年・1定 一般質問 3月12日	質 問 者	菊地 葉子 議員 日本共産党 (小樽市)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>一 新型コロナウイルス感染症対策について (三) 休校・再開および分散登校について 知事は「2月27日から全道の小中学校」の休校を要請し、道立校に拡大、更に分散登校の実施を要請しました。 休校等は設置者の判断と権限で行われるものですが、知事及び教育長の認識を伺います。 知事は、誰と、どのような相談や会議を経て意思決定されたのですか、休校の合理的根拠とともに伺います。 また、春休みまで休校する学校と、早期再開を予定している学校もあります。 早期再開や分散登校等について、市町村の考え方と対応を尊重されるのですか、知事及び教育長に伺います。</p> <p>(再質) 教育長に、「早期再開・分散登校等について市町村の考えと対応を尊重するのか」伺いましたが、尊重する旨の答弁はありませんでした。 学校の再開等は設置者の判断で行われるのか、誰の権限に属することか明快にお答えください。</p> <p>(再々質) 休校中の学校再開の判断についてです。参議院の公聴会で、政府の感染症対策本部・専門家会議副座長の尾身茂氏は、「学校閉鎖が効果があるというエビデンスはない」と明確に述べています。 しかし、道教委は休校の上、分散登校させるとしてありますが、専門家会議副座長とは別の科学的根拠や見解をお持ちなのですか。教育長に伺います。</p>		<p>(教育長) 分散登校などについてではありますが、道教委では、この度の臨時休業が、子どもや保護者にとって急な休業であり、休業期間も長期に及んでいることから、子どもの心身のケアや、新学期に向けた準備を目的として、感染予防対策を徹底した上での分散登校の実施を各市町村教育委員会にお願いしたところであります。 授業再開については、専門家会議の見解も踏まえながら、感染状況等を慎重に見極め、対応していかなければならないと考えており、引き続き、各市町村教育委員会へのきめ細かな情報提供と意見交換を重ねながら、知事とも連携し、適切に対応してまいります。</p> <p>(教育長) 学校の臨時休業等についてではありますが、道教委では、これまで、分散登校や授業再開について、専門家会議の見解も踏まえながら、各市町村教育委員会へのきめ細かな情報提供と、十分な意見交換を重ねてきたところであり、今後とも、道内や国内の感染状況等を慎重に見極め、子どもたちの健康・安全を第一に考え、適切に対応してまいります。</p> <p>(教育長) 休校についてではありますが、政府の専門家会議の3月9日に示された見解においては、北海道での対策については、複数の科学的な指標を用いて、この対策の効果を、今後、判断するとされております。 道教委といたしましては、知事部局と連携を図りながら、今後の専門家会議の見解等を踏まえ、子ども達の健康・安全を第一に考え、適切に対応してまいります。以上でございます。</p>		<p>義務教育課</p> <p>義務教育課</p> <p>義務教育課</p>